

| | | | |
|----------|--|------|----------------------------------|
| 科目名 | 労働経済学 | 科目分類 | ■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ） |
| | | | 経済学科 □必修 ■選択 |
| | | | 学科 □必修 □選択 |
| 英文表記 | Labor Economics | 開講年次 | □1年 □2年 ■3年 □4年 |
| ふりがな | ふじもと つよし | 開講期間 | □前期 ■後期 □通年 □集中 |
| 担当者名 | 藤本 剛 | 修得単位 | 2単位 |
| 授業のテーマ | 労働市場、労働条件・労働環境、労使関係について基礎知識を学び、働くことへの理解を深めます。 | | |
| 授業概要 | 3年後半になると就職活動が現実になってきます。この授業では「働く」ときに直面することになるさまざまな問題を社会政策の側面から取り上げ、制度や仕組み、現状と課題などについて共に考えていきます。近年、年功序列、終身雇用などを特徴としてきたわが国の労働市場が、派遣やパート労働、契約雇用など流動性を増大させており、また成果主義による賃金の導入も拡大しています。さまざまな労働をめぐる問題について、より踏み込んで分析し、確かな判断力と今後への指針を得るのがこの科目の目標です。 | | |
| 到達目標 | 労働に関連する知識や理解を深め、働くことに対する自らの意識を充実させることです。 | | |
| 授業時間外の学習 | 日常的には使うことのない専門用語がキーワードとして数多く出てきます。授業の復習を心がけてください。 | | |
| 履修条件 | 特にありません。 | | |
| 授業計画 | | | |
| 第1回 | 労働経済学とは何か | | |
| 第2回 | 労働市場をどう捉えるか（指標） | | |
| 第3回 | 労働市場政策①（雇用・失業対策） | | |
| 第4回 | 労働市場政策②（女性、若者） | | |
| 第5回 | 労働市場政策③（高齢者、障害者、外国人） | | |
| 第6回 | 労働時間をめぐる政策の流れ | | |
| 第7回 | 今日の労働時間問題とワークシェアリング | | |
| 第8回 | 賃金制度 | | |
| 第9回 | 賃金政策（最低賃金制など） | | |
| 第10回 | 日本の賃金と賃金政策 | | |
| 第11回 | 今日の賃金問題（成果主義・年俸制など） | | |
| 第12回 | 労使関係とは | | |
| 第13回 | 労働組合 | | |
| 第14回 | 日本の労使関係（歴史） | | |
| 第15回 | 日本の労使関係（現状） | | |
| 第16回 | 定期試験 まとめとテスト | | |
| テキスト | プリントを使用します。 | | |
| 参考文献・資料 | 『公務員Vテキスト12 社会政策』第12版 TAC出版 『労働経済白書』各年版 | | |
| 成績評価の方法 | 定期試験（50%）、レポート・ビデオの感想・意見等（30%）、受講態度（20%） | | |
| 成績評価基準 | 【平成27年度（2015）以前に入学した学生】 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 【平成28年度（2016）以降入学した学生】 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) | | |

| | |
|---------------|------------------------------------|
| | ※出席回数が規定に満たない場合、試験を受けることができません。 |
| オフィスアワー | 火曜日・水曜日の16時00分～17時00分 |
| 学生への メッセージ | 授業に関連する新聞記事のチェックやプリントの復習を心がけてください。 |